

立体地球に興味津々

音更で「デジタルアース」

【音更】地球や惑星を球体のスクリーンに立体的に映し出す「デジタルアース」を楽しむイベントが5日午前10時から、木野コミセンで開かれた。十勝管内の小中学生50人が参加し、宇宙の世界に想像を膨らませた。

NPO教育支援協会北海

道(本部帯広)が展開する「放課後おもしろサイエンス」の特別講座。デジタルアースの普及に取り組む京都大学理学部から機材を借り、同NPOのディレクターの白石友柄さんが講師を務めた。



子どもたちは直径2層の球体スクリーンに投影された惑星を観察。「木星はいろんな色が混ざっていた」とコンにつないだマウスで惑星を操作した。

直径2層の球形のスクリーンに映し出された地球(5日午前10時半ごろ、新井拓海撮影)

星の画像を動かす体験もあり、織茂慎太郎君(音更柳町小4年)は「想像していた色と違った」と驚いた表情を見せた。

午後は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の小野清孝さんを講師に月球儀の工作が行われた。(高津祐也)

